

第52回

ヘルンをたたえる

青少年スピーチ コンテスト

2018年

9月23日[日]

松江市
総合文化センター

出場者募集のご案内

小泉清(ヘルン像)
(小泉八雲記念館蔵)



When O-Toyo's husband had been summoned by his lord to the capital, she felt sad. It was the first time since their bridal that they had ever been separated. But she always had plenty to do. There were many household duties to perform.

The child was her constant delight. He was three years old, and fond of asking questions to which only the gods know the real answers. When he wanted to play, she laid aside her work to play with him. When he wanted to rest, she told him wonderful stories.

When he had been laid to sleep, she brought her work near him, and watched the still sweetness of his face. Sometimes he would smile in his dreams: and she knew that Kwannon the divine was playing shadowy play with him.

Sometimes, in the season of very clear days, she would climb the mountain of Dakeyama, carrying her little boy on her back. The sloping way was through groves and woods, and over grassed slopes, and around queer rocks; and there were flowers with stories in their hearts, and trees holding tree-spirits. Pigeons cried, and cicadae wheezed.

At the very top is a stone of almost human height and shape perpendicularly set up. And near by there is a small Shinto shrine erected to the spirit of a princess of other days. For she mourned the absence of one she loved, and used to watch from this mountain for his coming until she was changed into a stone. The people therefore built the shrine; and lovers of the absent still pray there for the return of those dear to them.

Always before O-Toyo and her son could reach their home after such a day, the dusk would fall softly about them; for the way was long, and they had to both go and return by boat through the wilderness of rice-fields round the town,—which is a slow manner of journeying. Sometimes stars and fireflies lighted them; sometimes also the moon,—and O-Toyo would softly sing to her boy the Izumo child-song to the moon:—

Nono-San
Little Lady Moon
How old are you?
“Thirteen days,—
Thirteen and nine.”
That is still young.

And up to the blue night would rise from all those wet leagues of labored field that great soft bubbling chorus which seems the very voice of the soil itself,—the chant of the frogs. And O-Toyo would interpret its syllables to the child: *Me kayui! me Kayui!* “Mine eyes tickle; I want to sleep.”

All those were happy hours.

—“O-Toyo and her Little Child”
『改訂 新・小泉八雲暗唱読本』(八雲会)より

→ 暗唱作品の例(全文)
小泉八雲の作品を、本コンテストの発表時間である3分以上5分以内で暗唱できるような編集したものです。

英語で楽しむ小泉八雲(ヘルン、ラフカディオ・ハーン)の世界

52nd Young Persons' Recitation Contest in Honor of Lafcadio Hearn

Sunday, September 23, 2018 General Culture Center of Matsue City

青少年スピーチコンテスト 募集要項

1. 趣旨

松江を世界に紹介した文豪小泉八雲(ラファディオ・ハーン、ヘルン)の偉業をたたえ、八雲の作品を暗唱するコンテストを開催します。八雲の美しい英文に触れ、青少年の英語の表現力向上に資し、国際理解と親善に貢献することを目的とします。

2. 開催日時

平成30年9月23日(日) 9時から18時まで

- ◆開催時間は、参加者数により変更する場合があります。

3. 開催場所

松江市総合文化センター(松江市西津田6丁目5番44号)

4. 応募規定

①参加資格

ジュニアの部……小学生及び中学生

シニアの部……高校生(高等専門学校在学者は3年生まで)

- ◆両部門とも1校2名以内。小中一貫校については、小学生・中学生各2名以内。

②スピーチの内容

八雲の英文の作品(『改訂 新・小泉八雲暗唱読本』)の暗唱発表。

- ◆3分以上5分以内
- ◆発表内容は、原則として、原文のままとします。
- ◆やむを得ず発表者の学習進度に応じて原文の書き換えが必要な場合は、最低限度にとどめ、原文との違いがわかるように、見え消しで記入した暗唱文を5部添付して申し込んでください(『改訂 新・小泉八雲暗唱読本』の文と同一の場合は、暗唱文の添付は不要です)。
- ◆暗唱発表の前後に英語で感想を暗唱する場合は、暗唱文を5部添付して申し込んでください。
- ◆申し込み後、発表内容に変更が生じたときは、9月4日(火)までに改めて5部お届けください。

③申込方法

所定の参加申込書に氏名、性別、学年、題名を明記し、学校を通じて申し込んでください。

- ◆発表時刻に希望があれば、参加申込書に記載してください。なお、発表順は主催者において決定し、開催日10日前にその他の連絡事項とともに通知します。

④申込締切

平成30年8月27日(月) 必着

5. 審査

発音・イントネーション・ストレス・リズム等の言語(英語)要素とともに、国際的視野に立ったプレゼンテーション力全般について審査します。

6. 賞

松江市長賞(賞状・楯・賞品)……………各部門1名
松江教育委員会教育長賞(賞状・楯・賞品)……………各部門1名
八雲会長賞(賞状・楯・賞品)……………各部門1名
日本国際協力センター理事長賞(賞状・楯・賞品)……………各部門1名
山陰日本アイルランド協会会長賞(賞状・楯・賞品)……………各部門1名
八雲会奨励賞(賞状・賞品)……………若干名

【特別賞】

へるん賞(賞状・楯)……………ジュニアの部1名(松江市長賞受賞者)
アイルランド大使賞(賞状・楯)……………シニアの部1名(松江市長賞受賞者)

7. 応募上の注意

応募の際は、以下について同意のうえ申し込んでください。

- ①入賞者の氏名・写真は、主催者の広報紙やWEBサイトで紹介されること。また、申し込みの際同意の得られた方については、音声または動画がWEBサイトで公開されること。
- ②入賞者のスピーチは、録音・CD化し、当スピーチコンテストの学習資料として販売されること。
- ③本スピーチコンテストについての質問は、ホームページにおいて回答し公開されること。

8. 申込・問い合わせ先

松江市観光振興部観光文化課文化係
〒690-8540 島根県松江市末次町86番地
TEL: 0852-55-5517 FAX: 0852-55-5634
E-mail: bunka-kakari@city.matsue.lg.jp
ホームページ: <http://www1.city.matsue.shimane.jp/bunka/bunka/speech.html>

9. 主催

松江市・松江教育委員会・八雲会

10. 後援

アイルランド大使館・一般財団法人日本国際協力センター・山陰日本アイルランド協会・新宿区・熊本市・焼津市・山陰中央新報社・朝日新聞松江総局・毎日新聞松江支局・読売新聞松江支局・産経新聞松江支局・日本経済新聞社松江支局・中国新聞社・新日本海新聞社・島根日日新聞社・共同通信社松江支局・時事通信社松江支局・NHK松江放送局・TSK山陰中央テレビ・BSS山陰放送・日本海テレビ・エフエム山陰・山陰ケーブルビジョン・小泉八雲記念館

小泉八雲

(ラフカディオ・ハーン)

Lafcadio Hearn

小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)は、1850年6月27日ギリシャのサンタ・マウラ島(現在のレフカダ)で生まれた。「ラフカディオ」の名前は島の名による。父はアイルランド人で当時ギリシャで駐屯していたイギリス軍の軍医、母はギリシャ人であった。2歳の頃母と共にダブリンに移ったが、両親は離婚し、大叔母に育てられた。

16歳の頃、怪我がもとで左眼を失明。その上、父が帰国の船中で死亡したり、大叔母が破産するなど不幸な出来事が続いて、経済的な事情から学校をやめざるを得なくなった。

19歳の頃、移民船に乗ってアメリカに渡り、やがて新聞記者となる。すぐれた探訪記事を書くことで、アメリカでは広く知られるようになった。

1890年4月紀行文記者として来日。まもなく島根県尋常中学校の英語教師として松江に赴任し、松江の美しい風物や素朴な人情を愛した。翌年旧松江藩士の娘小泉セツと結婚し、塩見繩手の武家屋敷(現在のヘルン旧居)で暮らした。

1891年11月熊本の第五高等中学校に移り、その後、神戸クロニクル社を経て帝国大学(現在の東京大学)英文学講師となったが、その文学講義は若い学生の心をとらえて大変人気があった。1904年9月26日狭心症により、東京にて死去。享年54歳。



小泉家蔵

日本についての10数冊の著作は、現代において失われつつある「日本の美や心」を広く海外に紹介した名作である。

松江の小泉八雲記念館は、八雲の遺品や遺稿を収め、その人と文業を永く伝えるために設立された。

第51回コンテスト(2017年)
松江市長賞受賞者による
スピーチ

スピーチコンテストのあゆみ

1966	10.15	第1回	「へるんを讃える全山陰中学英語スピーチコンテスト」を開催 以後、毎年9月26日の命日の前後に開催
1986	9.28	第20回	「ヘルンをたたえる青少年スピーチコンテスト」と改称 対象を20歳未満の青少年に拡大、全山陰という応募地域枠を撤廃 「アイルランド大使賞」新設
1990	10.28	第24回	小泉八雲来日100年記念
1991	9.29	第25回	国際文化観光都市40周年記念
1998	9.27	第32回	「へるん賞」新設
2001	9.23	第35回	国際文化観光都市制定50周年記念
2003	9.23	第37回	「山陰日本アイルランド協会長賞」新設
2004	9.18	第38回	小泉八雲没後100年記念
2005	9.17	第39回	「財団法人日本国際協力センター理事長賞」新設
2010	9.26	第44回	小泉八雲来日120年記念
2017	9.24	第51回	日本・アイルランド外交関係樹立60周年記念



参加申込書

第52回 ヘルンをたたえる青少年スピーチコンテスト

◆学校を通じてお申し込みください。

フリガナ	
氏名	
ローマ字	
性別	学年
題名	『暗唱読本』のページ
WEBサイトにおける音声または動画の公開に	
同意する	同意しない
(該当する方を○で囲んでください)	
添付書類	
あり	なし
(該当する方を○で囲んでください)	

フリガナ	
氏名	
ローマ字	
性別	学年
題名	『暗唱読本』のページ
WEBサイトにおける音声または動画の公開に	
同意する	同意しない
(該当する方を○で囲んでください)	
添付書類	
あり	なし
(該当する方を○で囲んでください)	

特に希望すること(発表時刻など)

上記のとおり参加を申し込みます。

所在地 〒 -

平成30年 月 日

学校名

電話番号 - -

学校長氏名

印

連絡先(指導教師名)

申込先

松江市観光振興部観光文化課文化係

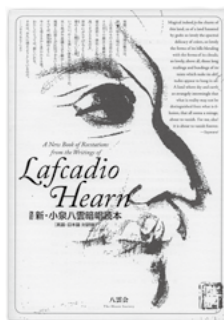
〒690-8540 島根県松江市末次町86番地

TEL: 0852-55-5517 FAX: 0852-55-5634

E-mail: bunka-kakari@city.matsue.lg.jp

申込締切

平成30年8月27日[月]必着



『改訂 新・小泉八雲暗唱読本』

本コンテストで使用する

『改訂 新・小泉八雲暗唱読本』(八雲会発行)

定価1,500円(送料別)

参考のために、過去の優秀者のスピーチを収録したCDを用意しています。

1枚300円(送料別)

購入を希望される方は、松江市観光振興部観光文化課文化係(TEL:0852-55-5517)までご連絡ください。